

フタスジヒメハムシの加害実態と防除法

福島県農業試験場相馬支場
平成15～17年度試験成績概要

1 部門名 普通型作物—大豆—病害虫発生、防除、浜通り平坦

分類コード 02-05-22236800

2 担当者 菅田充・島宗知行・大谷裕行・大和田正幸

3 要 旨

2001年に浜通り地域で成熟期の大豆子実表面に黒点及びすじ状の模様(黒斑)が発生したため、黒斑粒発生の原因と対策について検討した。

(1)2002年に浜通り地方の被害調査を行い、いわき市、浪江町、南相馬市原町区で黒斑粒の発生を確認し、黒斑粒率は最大で40%に達した。フタスジヒメハムシ成虫を確認したことから黒斑粒の発生原因はフタスジヒメハムシ成虫の食害と推定され、2003年に成虫の放飼試験を行い、莢の食害及び黒斑粒の発生を確認した。

(2)2005年に成虫の発生消長を調査した。黒斑の主要な発生原因である第2世代成虫の発生はそのピークが9月4半旬～6半旬となった。

(3)2004年に加害状況を調査した。莢食害のピークは9月4半旬となり、成虫の発生ピークと一致した。

(4)2005年に相馬支場内ほ場と南相馬市原町区の現地ほ場で成虫の防除試験を行った。防除薬剤はシベルメトリン乳剤2000倍、散布時期は9月3半旬から6半旬、散布回数は9月3、5、6半旬の各1回と9月5、6半旬の2回とした。1回及び2回の薬剤散布により成虫密度と被害莢率は減少したが、黒斑粒は現地の9月6半旬1回防除では減少しなかった。しかし防除後2週間程度は成虫密度が低く推移したこと、莢食害のピークが発生のピークと重なることから、第2世代成虫が増加し始める9月中旬の1回散布が効果的であると考えられた。なお、浜通り地域で少発生条件下の試験結果であるため、発生消長の異なる地域では散布時期の検討を要する。

4 その他の資料など

(1) 平成14年度参考に供する成果 浜通りで発生した大豆の「黒斑粒」

(2) 東北農業研究 56、77-78(2003) 福島県浜通り地方における「黒斑粒」の発生

(3) 東北農業研究 58、73-74(2005) 福島県浜通り地方におけるフタスジヒメハムシの発生について